

タイトル	移民の移住先における身分制度の変化		
所属	南山大学人文学部人類文化学科	氏名	岡島沙良

テーマ：移民として他国に移住した人々が、彼らのルーツである国において存在している・あるいは存在していた身分制度（出自などによって就ける職業や権限が決定される社会的制度）をどのように移住先の国へと持ち込み、それらが移民先の国でのどのような影響を受けて変化したか（即ち移民のコミュニティの中で、それらの身分制度による統制の強弱やその他の変化の有無、それらが移住先の社会にどのように影響された結果であるか）について。

対象として、アメリカに移り住んだインド系移民の身分制度について取り上げることを考えている。アメリカ合衆国カリフォルニア州の通称シリコンバレーと呼ばれる地域には、多数の半導体関連企業・IT企業が集中して位置しており、技術者としての職を求めて多くのインド人がその周辺に移住している。

・インドの隣国であるミャンマーを除きアメリカ合衆国はインド系移民の最大の居住国となっており、アメリカ合衆国のインド系移民は、タクシードライバー、モーターや飲食店の経営者のほか、医者や弁護士などの専門職というように幅広い階層からなる。1990年代以降においては、とくにIT技術者が増加し、2001年においてシリコンバレーには30万人を超えるインド人IT技術者が従事し、現時点でその数は増加しているとの見方もあるという。（南埜：46）

・実際に、インドのヒンドゥー教におけるカースト制度が、シリコンバレーのIT企業で働くインド系技術者たちに影響を及ぼし、結果として彼らの採用や昇進にカースト制度での階級が影響しているという事例がある。2020年にシリコンバレーの大手IT企業に勤めていたヒンドゥー教での下位カーストである被差別民ダリッドに属する男性が、高位カーストの男性から昇進の妨害・ボーナスを没収するなどの差別を受け、同会社の人事部に訴えるも「カースト差別は違反ではない」として問題視されなかったことから訴訟へと発展するに至ったという。

（奈良部：参考URL①）

・上記の事例から、インドのカースト制度はインド人移民によってそのままアメリカに持ち込まれ、インド外にあってもインド人移民間で適用されているように見える。しかし、カースト制に基づく差別的な処遇を不当として訴訟を起こしている点で、インドの外、即ち移住先に存在している、カースト制度の外側の価値観や社会的な仕組みがすでにインド人コミュニティに影響を及ぼしていることを示しているのではないかと考えられる。（また、上記の事例では当初企業の人事部がカースト制に基づく差別を問題視していなかったことから、移民コミュニティ内では重大だとされる事柄が、移民先の社会では重大だと捉えられない状況や、なじみの薄い慣習や文化に対する理解が浅い為に過少に捉えることで両者の間に齟齬が生じる状況も読み取ることができる。）

参考文献
南埜猛

2008「インド系移民の現状と動向—インド政府発表資料（1980年報告と2001年報告）をもとに—」『移民研究（Immigration Studies）』琉球大学移民研究センター、第4号31-50

参考URL
奈良部健

「なぜインド人は世界で成功？マイクロソフトインドを率いたトップの答えは」『朝日新聞 GLOBE+』、2021年7月5日
(<http://globe.asahi.com/article/14385892> 最終アクセス日：2021年12月12日)